



主な展示製品

- 診断画像表示用ディスプレイ
- マンモ画像表示用ディスプレイ
- サージカル画像表示用ディスプレイ
- ハイブリッドオベラ用4K画像伝送表示ソリューション

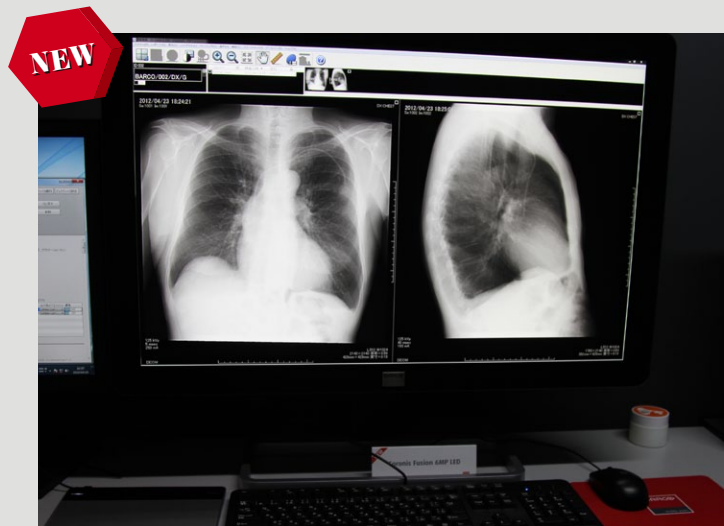
テーマ 最新の医用画像表示ソリューションを実体験

高性能ディスプレイを多数展示し、パフォーマンスの良さを示した。また、読影室や手術室のモデルコーナーを配置し、医療現場での利用効果を実体験できる工夫をした。

診断画像表示用ディスプレイ

「Coronis Fusion 6MP」

医用画像表示用6MPカラーワイドディスプレイ「Coronis Fusion 6MP」は、最新IPS液晶パネルとLEDバックライト技術を採用、キャリブレーション推奨輝度600cd/m²の高輝度と1500対1の高コントラスト比の実現により、高解像度による画像環境を提供する。また常時監視・自動補正型フロントセンサー「I-Guard」とディスプレイ品質管理ソフトウェア「MediCAL QAWeb」の連動により、画像品質補正を常に行い、DICOM規格準拠の画像品質を維持できる。さらにバルコ独自開発の「低反射コーティング」を施した全面保護カバーの標準装備により、周辺光による画面への映り込みを低減した。加えて、デスク表面近くまでディスプレイ筐体を下げることができる新スタンド機構を採用した。



Coronis Fusion 6MP

〈診断用画像コーナー／マンモ画像コーナー／サージカルコーナー〉

ブース内には3つのコーナーを設け、その中にバルコ製品を配置し、より効果的な展示を行った。特に「診断用画像コーナー」と「マンモ画像コーナー」では、実際の読影室による医用画像表示ソリューションの実体験が可能であり、前者には「Coronis Fusion 6MP」「Coronis Fusion 4MP」など、後者には「Coronis Uniti」「Nio 5MP LED」などが設置された。どの製品も最新液晶パネルとLEDバックライトにより、暗室でも目の疲れを感じさせない効果を示していた。

「サージカルコーナー」では、非圧縮画像伝送システム「Nexxis」対応による4K内視鏡画像表示が58、31インチのサージカルディスプレイを使って行われ、精細な画像伝送技術の手術室への応用効果を来場者に示していた。



暗室の中でも超高輝度バックライト搭載で、目に優しいディスプレイ



サージカルコーナーでは精細な画像伝送技術を提示